

南区社協・福祉だより

ふれあいネットワーク

〔編集・発行〕



社会福祉法人 広島市南区社会福祉協議会
 広島市南区皆実町一丁目4-46南区地域福祉センター内
 TEL 251-0525・251-0505 FAX 256-0990
 E-mail : minami@shakyohiroshima-city.or.jp

南区で大規模な災害が発生した場合、「南区災害ボランティアセンター」が開設されます。広島市土砂災害での活動を参考に災害ボランティアセンターの役割や運営、地域での防災活動について学ぶため『平成26年度 南区災害ボランティアセンター開設・運営研修会』を3月7日に開催しました。

当日は、講演会とシンポジウムを通して南区で想定される被害や災害ボランティアセンターの役割及び運営のポイントなどについて学びました。

また、南区ボランティアセンターに登録されているボランティアにご協力いただき、非常食の試食会、炊き出しも行いました。

今号では、その様子をお知らせいたします。

シンポジウム「広島市土砂災害を振り返って」

シンポジスト 三村 誠司 氏 (安佐北区社協)
 前原 土武 氏 (災害復旧・復興支援コーディネーター)
 藤井明日香 氏 (ボランティア)
 富吉 亘哉 氏 (広島 オペレーションつながり)
 藤原 明男 氏 (新建自治会)

コーディネーター 水谷 綾 氏 (大阪ボランティア協会)



左からシンポジストの三村さん、前原さん、富吉さんです

コーディネーターの進行のもと、災害ボランティアセンター、外部支援者、外からのボランティア、現地(周辺)の若い力、地元自治会というそれぞれの立場からこの度の広島市土砂災害を振り返りました。

その中で、災害はひとつとして同じものではなく、地域の支援の形も異なる。安佐北区災害ボランティアセンターの特徴は、3か所のサテライトを設置し、そこに地域の自治会や自主防災会の方がいてくれ、指示をしていただいたことで混乱を避けることができたこと、学生・NPO法人など、多くの人達がセンターの運営に力を貸してくれ、地域と協働し、必要なことやできることを考えながら復旧・復興が進んでいることなどが報告されました。



左からシンポジストの藤原さん、藤井さん、コーディネーターの水谷さんです

この災害を振り返ると、多くのボランティアなどが関わる災害ボランティアセンターでは、マニュアルの準備であったり、自治会や町内会では、情報伝達の方法や避難方法の確認など、いざという時に備えておくことが大事で、そのために、日ごろから隣近所で助け合える「近助」のつながりをつくっておくことや助けってもらうための力「受援力」を養うことが必要であると報告されました。

目 次 ～ 主な内容 ～

- 「平成26年度 南区災害ボランティアセンター開設・運営研修会」概要 P2
- 「地区社協活動紹介(楠那学区社協、大河地区社協、大州学区社協、皆実学区社協)」 P3,P4
- 「ボランティアグループ紹介(さくら会)」ほか P5
- 「愛の灯」ほか P6

平成26年度 南区災害VC開設・運営研修会概要

講演 「南区での想定被害について」 講師 広島市南消防署 副署長・警防課長 神田 良彦 氏

南海トラフ地震は30年～40年以内に60～70%の確率で発生すると言われています。津波の発生する南海トラフ地震が発生した場合、南区の場合は震源から遠く、津波が到達するまでの時間的余裕もあるので冷静に状況を確認し、判断するための時間があります。

詳しくは広島市のホームページや「広島県防災WEB」というホームページで想定されている被害などを調べることができます。

現在、町内会の方々、自主防災会の方々、区役所、消防署で協働し、学区単位での「避難計画マップ」づくりを進めています。

説明 「災害ボランティアセンターの役割について」

「南区での立ち上げについて」 説明者 広島市ボランティア情報センター 所長 坂本 泉 氏

震度5弱以上の地震の発生、台風や大雨により土砂災害や水害が発生し、生活に支障をきたすことになった場合、災害対策本部などから被災状況を把握し、災害ボランティアセンターの開設について判断することになっており、南区で開設する場合、南区役所別館が候補地となっています。

災害ボランティアセンターの運営方針は“被災者支援”、“地元主体”、“協働”の3つです。

活動は大きく「災害発生初期」、「生活支援期」、「復興期」の3つの時期に分けて考えることができます。

～災害ボランティアセンターの設置に際してのお願い～

- 地区社協へのお願い 災害が発生した場合、被災状況の把握、復旧への支援にご理解・ご協力をいただきたい。
- 住民活動への期待 向こう三軒両隣で助け合える「近助」の関係を日ごろからつくって欲しい。



およそ、100人分の豚汁の材料の切り出しは大変な作業です



非常食の試食も好評でした



美味しい豚汁の炊き出しもありました

非常食試食アンケート

水を加え、食べられる状態にした非常用保存食(マジックライス)の試食会を行い、味についてアンケートを行いましたので、その結果を報告します。

品名	順位	品名	順位
ドライカレー	1	五目御飯	5
エビピラフ	1	牛飯	7
梅じゃこご飯	3	炒飯	8
しそわかめご飯	4	白米	9
青菜ご飯	5		



研修会の感想(アンケートより抜粋)

- ・災害については大変心配しているので、実際に、ボランティアセンターが被災者の為に活動されている事が確認できて安心した。
- ・地域との連携が大切。町内会長が調整。
- ・地域復興のためにはまず駐車場の確保が大事なポイントだという事は意外でした。
- ・近所の住人達とのコミュニティーも大切なポイントだという事なので、近所の人達とまず、あいさつから始めていきたいと思いました。
- ・災害時の対応について、被災者の方々(地域住民)とのつながりが普段からコミュニケーションをとることで深まること、それが災害時にとつともない力を発揮することが知れたの

が良かったと思います。

- ・現場で活動された方の生の声を聞くことで今後の災害が起こってしまったときの対応を知れたので良かったです。
- ・地区社協、町内会として災害について話し合い(検討)などしたことがなかった。今後は災害があったらどうするかといった様な事で、具体的な行動について町としてのマニュアル等の作成を急ぎたいと思っています。
- ・ボランティアの活動を見直しました→今迄は後始末の手伝いをするぐらいのことだろうというぐらいに思っていました。これからは行政としてもっと支援して欲しい。
- ・学生さんのボランティア活動、行動力を見直しました。

(※原文のまま掲載しています)

わたしのまちの地(学)区社協

南区には、概ね小学校区に地(学)区社会福祉協議会が組織されており、16の地(学)区社会福祉協議会があります。地(学)区社会福祉協議会では、誰もが安心して暮らすことのできる“まちづくり”を目指して、様々な取り組みが進められています。

その取り組みをいくつか紹介いたします。

●しっかりと土台づくりからはじめます● ～楠那学区社協～

“高齢者地域支え合いモデル事業”の指定を広島市から受け、楠那学区社協では今年度から高齢者を地域で支えていくための仕組みづくりがはじまりました。

地域の中では民生委員・児童委員や老人クラブ、町内会・自治会などにより高齢者の見守り活動が行われています。

しかし、これらの取り組みはボランティアを基本とした取り組みであるため、地域によって格差が生じています。また、積極的に取り組まれている地域も、町内会をはじめ、各種地域団体の加入率の低下が続き、担い手の確保が難しくなっています。また、高齢化が進み、これまでどおりの取り組みを続けていくことが難しくなると思われます。

そこで、様々な活動主体が取り組んでいる見守り活動で得た情報を集約し、その情報を基に地域包括支援センターが連絡・調整などを行うコーディネーターとなって高齢者を地域全体で支え合う仕組みづくりを目指します。

楠那学区社協 加藤会長は、「少子高齢化が進み、単身高齢者が増加していく状況の中で必要な取り組み。しかし、土台がしっかりしていないと取り組みがはじまっても継続しない。取り組みを進めていくための土台となる組織づくりをしっかりとしたい。また、若い世代の人達を巻き込みながら進めていくようにしたい。」と言われ、毎月1回、学区社協、民生委員、町内会、老人クラブの方々との会議を開催しながら組織づくりから進めています。

しっかりと土台となる組織をつくるためには、時間がかかるかもしれません。若い世代の人達も巻き込みながら、学区社協としてどのような組織をつくり、どのように取り組みが進んでいくのか注目です。



仁保・楠那地域包括支援センター
田村センター長も参加されています



熱い話し話す楠那学区社協 加藤会長



皆さん、熱心に議論されます

●“地域支え合いマップ”づくりからはじめよう!!● ～大河地区社協～

大河地区社協では、「福祉のまちづくりプラン」を策定した時、活動推進のための4つの委員会を立ち上げました。

「近隣ミニネットワークづくり委員会」、「ふれあいいいききサロン委員会」、「地区ボランティアバンク委員会」、「関連福祉事業推進委員会」の4つの委員会です。

この中の「近隣ミニネットワークづくり委員会(以下、委員会)」では少子高齢化、単身高齢者、特殊詐欺被害、消費者被害の増加などが進む中、気がかりな人が地域の中で安心して暮らせるよう、見守りの活動を進めるため、委員の皆さんで知恵を出し合っています。

委員会では災害時の避難支援計画づくりなどのために「地域支え合いマップ」という手法を取り入れ、地域の助け合い・支え合いの様子、住民同士の関わりを地図に書き込み、見えるようにし、今後の取り組みの方向性を確認しました。

“地域支え合いマップ”は、地域の支え合い・助け合いの活動や地域住民の関わりを見えるようにしたものです。気がかりな人がどこにいるのかを把握するだけでなく、その人の活動や近隣関係などを把握することで、今できていること、これから必要な援助は何かなどの理解も進み、その後の活動に活かすことができます。

また、活動の様子や住民同士の関わりが共有できること、限られた人だけではなく、多くの人に関わってもらえることが利点と言えます。

大河地区でも、北大河地区で試験的に実施したところ、地図で可視化することで「思っていたよりも、ひとり暮らし高齢者が多く、こんな状況になっていたとは思わなかった」と改めて気づかれたこともありました。

誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めていくためには、皆ができる範囲のことで関わること、活動の様子を皆が知っていることが必要ではないかと思えます。“地域支え合いマップ”はそれを進めていくためのきっかけになるものだと思います。

これから大河地区社協の福祉のまちづくりがどのように進んでいくのか楽しみです。



夜間の会議にもかかわらず、多くの方が出席されます

●たまにはお洒落してでかけよう● ～皆実学区社協～

皆実学区社協では、毎年3月に70歳以上のひとり暮らし高齢者の方を招待して“ひとり暮らし高齢者 ふれあい会食会(以下、会食会)”を学区内の3つの集会所で開催しています。

普段から、近所の人と交流を深めたり、生き甲斐をつくったり、健康増進につながる取り組みとして“いきいき・サロン(以下、サロン)”がありますが、それとは別に民生委員児童委員協議会と協力して“会食会”を開催されます。“サロン”が普段着でお出かけするところとすれば、この“会食会”は、ちょっとお洒落をしてお出かけするところです。

実際、参加されている皆さん、お洒落をしてお出かけされました。

皆実学区社協 市川会長は「ひとり暮らしの高齢者の中には会話の機会が少ない人もいます。できるだけ、こういった機会を増やしていきたい。お洒落はそれだけで人を明るい気持ちにしてくれる。お洒落をし、お出かけする場面づくりは大切にしていきたい。」とおっしゃいます。

また、当日のアトラクションも地域内の方が手品や指笛などの特技を活かしたものを披露してくださり、本当に地域が一体となって開催しています。

会場中、本当に楽しそうな会話と笑い声が溢れており、皆さんのあたたかさと感じることができました。



素晴らしい指笛でした



多くの方にご参加いただきました



体操で体を動かすのもいいものです

●楽しい会話で交流&ストレス発散● ～大州学区社協～

3月15日(日)大州学区社協では恒例の「大州学区 ふれあいの集い」が開催されました。

70歳以上のひとり暮らしの高齢者42名が参加され、大変にぎやかな集いとなりました。

おしゃべりだけでなく、地域の方の三味線の演奏、踊りの披露、ハーモニカ演奏などもあり、大いに盛り上がりました。

大州学区では、敬老会は町内会ごとに開催をされるので、この集いは、町内会を超えて地域の方が交流する場となっています。

「町内会を超えて、いろいろな人と交流できて嬉しい」、「普段、挨拶程度しかしなかった人ともこの集いで交流することで、その後、ちょっとした会話ができるようになる」と言われる参加者もおられ、集いに参加され、地域の交流を深めておられます。

また、「ひとり暮らしだと普段あんまり会話をすることがないので、この集いでもおもしろい話をしてストレスを発散するんよ」と言われる方もおり、楽しいだけでなく、健康づくりにも役立っているようです。

参加者の皆さんの楽しそうな話し声を聞くことが、準備をされた大州学区社協、大州地区民児協の皆さんの元気の源にもなっているようでした。

これからも楽しく続けていっていただければと思います。



力強い津軽三味線の演奏です



ハーモニカも演奏にうっとりしました



みんなで楽しく踊りました

南区内の地(学)区社協では、大州学区社協、皆実学区社協の他に段原地区社協、黄金山地区社協、宇品東社協、元宇品地区社協で敬老会やふれあいきいきサロンに加え、このような“集い”を開催されています。

ボランティアグループ紹介 『在宅援助ボランティアグループ「さくら会」』

「さくら会」は元々在宅援助ボランティアグループとして平成4年に発足し、高齢者や障害児・者の在宅支援に携わっていました。時代の流れとともに介護保険制度が整備されたことに伴い、現在は施設における活動支援がメインになっています。現在、「さくら会」は特別養護老人ホーム「サンシャイン南蟹屋」で毎月第2水曜日に書道クラブの活動支援を、第4水曜日に料理クラブの活動支援をしています。3/11(水)は書道クラブの日。テーブルのセッティングを施設の職員と一緒にいきます。セッティングをしていると書道の時間を待ちわびる利用者さんが続々と集まってきます。

クラブ活動なので、「先生」はいません。利用者さんの自主性が重んじられています。いくつかあるお手本の中から利用者さん自身が好きな字を選び、思い思いに筆を走らせます。

「施設の中では生活がどうしても単調になりがち。クラブ活動をするのが利用者さんにとって良い刺激になる。利用者さんのみなさんがボランティアさんと接することもまた良い刺激となるので、ボランティアさんたちが来てくれることがありがたい」と利用者さんのみなさんとボランティアさんの笑顔をご覧になりながら施設長さんがおっしゃっていた言葉が印象的でした。

「良い作品ができたね!」「一緒に書こうか?」ボランティアさんたちもテーブルを回り、利用者さんのみなさんとおしゃべりを楽しみながらも目配り気配りを欠かしません。そうしている内に作品が完成していきます。

「ボランティア活動中は予想外のことが沢山ある。利用者の笑顔を見てうれしい事もたくさんあるが、嫌なことや疲れることもある。思っていたことと違うことが起きてもボランティアをしているうちに楽しくなる。だからこそ、今日までボランティアを続けることができた」

サンシャイン南蟹屋のクラブ活動支援は今年で7年目。今後も楽しくボランティアを続けて下さいね!

あなたも在宅援助ボランティアグループ「さくら会」でボランティアをしてみませんか?まずは定例会の見学にお越しください!

定例会日時：毎月第2木曜日 10:00～12:00

場所：南区地域福祉センター 3F ボランティア研修室
(場所が変更になる場合もあります)

問い合わせ先：南区社会福祉協議会 TEL 251-0525



皆さん、思い思いに筆を走らせます



皆さん、楽しそうです

平成27年度ひとり親家庭学習支援事業受講者募集中 広島市母子寡婦福祉連合会からのお知らせ

ひとり親家庭のこどもたちが、学習習慣を身に付け、基礎学力の向上、自分の将来に目標を持つことを目指した学習支援を昨年度に引き続き、広島市より広島市母子寡婦福祉連合会が受託し、行います。

講師は研修を受けた大学生などです。講習会場では保護者の生活相談などを受けることもできます。講座は1年を通しての講座と夏休みの講座と2種類の講座があり、講座の前に面談があります。

■対象者 広島市在住のひとり親家庭の子ども(小学4年生～中学3年生)

■申込方法 申込用紙に必要事項を記入し、FAXまたは郵送で申し込んでください。

■会場・日程等

	夏休み講座
募集人数	各会場18名程度
会場	①広島市社会福祉センター ②東区総合福祉センター ③西区地域福祉センター ④安佐南区総合福祉センター
指導科目	算数・数学・国語・英語(中学生)
面談日	7月5日(日)
日程	夏休み12日間(1日2時間)
参加費	無料

■申込み・問合せ先

(一財)広島市母子寡婦福祉連合会事務局
住所 〒730-0052
広島市中区千田町1丁目9-43
電話 (082)241-1768
FAX (082)241-3722



愛の灯

いつもご寄付のほどありがとうございます。
皆さまからお預かりしたご寄付は、南区の地域福祉の推進のために有効に活用させていただきます。

**寄付物品 平成27年1月1日～
3月31日まで**

● 物品寄付

岡田 憲明 様・平川 加恵子 様(東本浦・北大河)
川中 真志 様(比治山本町)
川島 好晴 様(仁保)
県立広島病院 地域連携センター 様(宇品神田)
甲藤 義弘 様(山城町)
甲藤 幸子 様(丹那町)
光清学園成人部 様(出汐)
皆実町6丁目ひまわりサロン 様(皆実町)
奥田 一美 様(東霞町)
ホープ薬局 様
永木 繁治 様
匿名希望の皆様

賛助会員を 募集しています!!

南区社会福祉協議会では、誰もがいきいきと安心して暮らせる『福祉のまちづくり』に取り組んでいます。いただいたお金は、地域で取り組まれている「ふれあいいきいきサロン」事業の財源等として、地域へ還元させていただきます。南区の福祉をますます充実させていくためにも、皆さまのご協力をお願い申し上げます。

■ 賛助会員(個人・団体)

- ・1口 1,000円
- ・何口でもご加入いただけます。
- ・ご加入については下記までお問い合わせ下さい。

■ お問い合わせ

社会福祉法人 広島市南区社会福祉協議会
〒734-8523 広島市南区皆実町1-4-46
TEL 082-251-0525
FAX 082-256-0990

**賛助会員にお申込みいただき
ありがとうございます。
平成26年度は、52口の申込が
ありました。** (3月31日現在)

お詫びと訂正

「南区社協・福祉だより」第93号2Pでご紹介させていただきました比治山学区の取り組みについての記事の中に誤りがございました。お詫びして訂正させていただきます。

東雲本町第一町内会⇒東雲本町一丁目町内会
東雲本町第二町内会⇒東雲本町二丁目町内会

ご寄付をお願いいたします。

- 物品は、古切手・アルミ缶・車いすなど。
(バスカードの受付は終了しました)
- 金銭は、祝い返し・香典返し・各種募金・チャリティーバザーやコンサートの収益金など。
- また、社会福祉法人に寄付された場合、寄付金控除の対象となります。寄付を希望される場合は直接南区役所別館(3階)にお持ち下さい。地域の皆さまからいただきました寄付は南区の地域福祉の推進のために有効に活用させていただきます。

「主な自主財源の事業」

- 地域福祉活動推進事業
 - ・地区(学区)社協活動の援助(いきいきサロン活動費等)
- ボランティア活動推進事業
 - ・ボランティアセンターの運営
- 心配ごと相談事業
- 福祉事業
 - ・老人福祉事業
 - ・児童福祉事業
 - ・障がい児(者)福祉事業
- 広報事業

お申し込み・お問合せ

社会福祉法人 広島市南区社会福祉協議会
電話 251-0525

赤い羽根共同募金にご協力 ありがとうございました

平成26年度実績額(平成27年3月31日現在)

合計	8,060,264円
戸別募金	6,401,522円
街頭募金	96,759円
法人募金	1,112,228円
職域募金	340,875円
その他	108,880円
達成率	62.4%

赤い羽根共同募金は、県単位で集約されて、配分委員会によって地域の福祉活動に配分されます。南区社協では毎年実施している「ボランティアフェスティバル」や在宅介護者の集いの開催、本広報誌に使わせていただいています。また、各

地区社協で取り組まれている「ふれあいいきいきサロン」や「地区ボランティアバンク」など誰もが安心・安全に暮らすためのまちづくりのための取り組みを進めていくために使われています。

この場を借りて、募金をくださった地域の皆さま、活動にご尽力いただいた関係者の皆さまに御礼申し上げると共に、今後とも、「じぶんの町を良くするしくみ」のひとつとして、共同募金へのご協力をよろしくお願いたします。



荒神小学校の児童の皆さんも街頭募金に協力してくれました